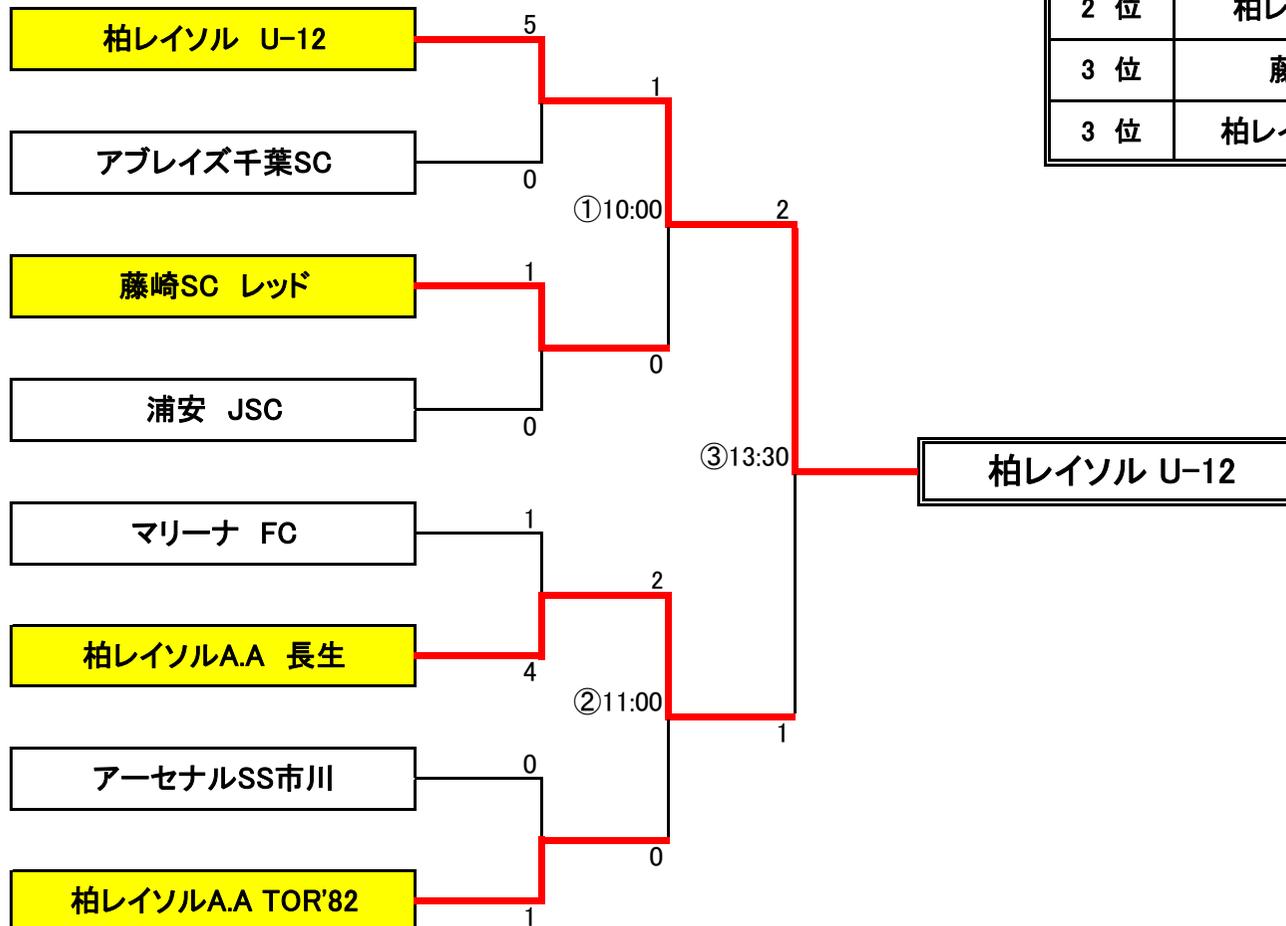


平成30年度 千葉県少年サッカー選手権5年生大会 <準決勝・決勝>

12月2日(日) 12月16日(日)
会場: 成田市・中台運動公園球技場

1位	柏レイソル U-12
2位	柏レイソルA.A 長生
3位	藤崎SC レッド
3位	柏レイソルA.A TOR'82



平成30年度 第38回千葉県少年サッカー選手権5年生大会（8人制サッカー）

決勝

日時 平成30年12月16日（日曜日）
試合会場 成田市中台運動公園球技場（人工芝グラウンド）
キックオフ 13時30分

対戦チーム

柏レイソルU-12

柏レイソルA.A長生

試合結果

2	0	前半	0	1
	2	後半	1	
	—	延長戦	—	
	—	(PK)	—	

戦評

同日に行われた準決勝戦では、柏レイソルU-12は藤崎SCレッドに、柏レイソルA.A長生は柏レイソルA.ATOR'82にそれぞれ勝利し決勝戦へと進出した。肌寒い曇り空の下、中台運動公園球技場で決勝戦が行われた。

【前半】

柏レイソルU-12(以下U-12)のキックオフで前半戦が始まった。それぞれのチームのシステムはU-12が3-3-1、柏レイソルA.A長生(以下長生)が2-3-2という形で見られた。

前半2分長生6番竹内選手のファーストシュート。続いて3分には長生が左サイドから攻め上がり、最後は47番宮崎選手のセカンドシュートと、長生がU-12のゴールに迫り試合開始早々に勢いを見せた。そのまま長生の勢いは止まらず、6分には長生47番宮崎選手が攻め込みコーナーを獲得し、コーナーキックを5番土屋選手が合わせたが、U-12の28番沼端選手がクリアし得点を奪うことはできなかった。その後試合の流れはU-12へ傾き、7分U-12の28番沼端選手が左から攻め上がり、中央30番越川選手がシュートするも、長生GK大塚選手が正面でキャッチ。8分にはU-12の25番奥津選手が右から攻め上がり18番廣岡選手、30番越川選手とつなぎ長生ゴールへ迫った。その後もU-12が早い縦パスを前線へつなぎ、11分には30番越川選手から18番廣岡選手へつなぎ、そのままフリーでシュートするもゴール左に外れ、決定的なゴールチャンスで得点することができなかった。12分にはU-12の26番大貫選手から18番廣岡選手へつなぎ、ゴールが決まるもののオフサイドの判定。その後は両チームの見応えのある攻防が続き、長生にチャンスが訪れたのは16分長生10番青江選手が攻め込み、中央へ走り込んできた45番三橋選手が合わせてシュートするも、U-12GKノグチピント選手の好セーブに阻まれ得点にはならなかった。その後も両チームが相手ゴールへ迫るシーンが見られたが、両チームとも得点を奪えずに前半が終了した。ボール支配率は、U-12が60%、長生が40%とほぼ互角であった。

【後半】

後半よりU-21はGKを含む4名の選手交代を行い、対する長生は前半と同じメンバーで後半戦が開始された。長生のキックオフシュートをキャッチしたU-12GK村田選手から33番三村選手へつなぎ、そのまま左から攻め上がり18番廣岡選手、再度33番三村選手へ折り返し、最後は30番越川選手がシュートと、U-12の高いポゼッション力が見られた。その後4分、6分と立て続けにU-12が長生ゴール前に迫

り、試合が動いたのは後半11分、後半から出場したU-12の7番長澤選手が左から攻め込みセンターリング、そのボールを18番廣岡選手が合わせ、ついに均衡を破るゴールを決めた。そのままゴールを決めたU-12のペースになると思われたが、その1分後の後半12分、長生5番土屋選手が左サイド45番三橋選手へつなぎ、そのまま鋭いシュートを放ち、U-12GK村田選手がはじいたボールを長生10番青江選手が押し込み、同点ゴールを奪い試合を振り出しに戻した。すぐに同点に持ち込む試合展開は決勝戦にふさわしい両チームの戦いであった。さらにその1分後の後半13分、U-12の18番廣岡選手がシュートしたボールを長生GK大塚選手が足でクリア、そのクリアボールをU-12左サイドバックの28番沼端選手がダイレクトシュート、20m以上のロングシュートを長生ゴールへ決めた。弾道が低く抑えられた素晴らしいシュートであり、私の周りにいた観客からもどよめきと歓喜の声が上がる「ビューティフルゴール」であった。その後も両チームは攻め続け、ゴールを狙い続けたが、両チームのDFやGKの好セーブによりゴールを奪うことができなかった。また、試合終了間際の長生のコーナーキックでは、長生GK大塚選手も相手ゴール前まで攻め上がり、全員攻撃で最後まであきらめずに得点を取りに行く姿が印象的であった。後半のボール支配率はU-12が55%、長生が45%と前半に続きほぼ互角であった。

試合を通しての所感としては、U-12は縦への早いパスにより相手ディフェンスをひき出し、その後サイド攻撃による攻めを展開し、高いポジション力を活かした攻撃に見応えがあった。また長生は相手ボール保持者へチャレンジ&カバーによる2名でのディフェンス対応がしっかりできており、高いディフェンス力が選手に身につけていることが分かった。選手個々の技術力やチームとしてのレベルが年々高まっていることが感じられた試合であり、どちらのチームが優勝してもおかしくない好ゲームで、両チームの指導者と選手へ賞賛を送りたい。

両チームには来年度も更なるレベルアップを図り、今後もすばらしいレベルの高いプレーをみせていただけることを期待したい。

